



中央公民館

【一般書】

- ・グリフィスの傷 (千早 茜)
- ・僕たちの箱根駅伝(上・下) (池井戸 潤)
- ・もう明日が待っている(鈴木 おさむ)
- ・対決 (月村 了衛)
- ・女の国会 (新川 帆立)
- ・幸せへのセンサー (吉本 ばなな)
- ・センスの哲学 (千葉 雅也)
- ・あきらめる (山崎 ナオコ)
- ・ニューワールド 風良ゆうの世界 (風良 ゆう)
- ・そして誰かがいなくなる (下村 敦史)
- ・鬼の哭く里 (中山 七里)
- ・マリコ、アニバーサリー (林 真理子)
- ・のち更に咲く (澤田 瞳子)
- ・西行 歌と旅と人生 (寺澤 行忠)
- ・覚悟せよ (矢野 隆)
- ・エミリン爆食アラサー女子旅 (エミリン)

※ここに記載の他、多数の新刊図書が入っています。

衣奈会館

【一般書】

- ・クリステイを読む！ (大矢 博子)
- ・帰ってきた避難小屋 (橋尾 歌子)
- ・二人目の私が夜歩く (辻堂 ゆめ)
- ・スピノザの診察室 (夏川 草介)
- ・わたくし大画報 (和田 誠)
- ・定食屋「雑」 (原田 ひ香)
- ・不思議な時計 (北村 薫)
- ・13 歳からのサイエンス (緑 慎也)
- ・リカバリー・カバヒコ (青山 美智子)
- ・こまどりたちが歌うなら (寺地 はるな)
- ・碧空の音 (あさのあつこ)
- ・秘密の花園 (朝井 まかて)
- ・あの日、選ばれなかった君へ (阿部 広太郎)
- ・クリームイエローの海と (せやま 南天)
- ・春キャベツのある家 (堀 文子)
- ・ひとりで生きる人生は (堀 文子)
- ・幕引き直前までが面白い (堀 文子)
- ・【児童書】
- ・5 ぶんだけちようだい (ジル・マーフイ)

白崎会館

【一般書】

- ・定年物語 (新井 素子)
- ・姥玉みつつ (西條 奈加)
- ・-196℃のゆりかご (藤ノ木 優)
- ・犬も食わない (千早 茜・尾崎 世界観)
- ・スラムに水は流れない (ヴァルシヤ・バジャージ)
- ・アドニス声が聞こえる (フィル・アール)
- ・【児童書】
- ・SPY X FAMILY (13 巻)
- ・推しの子 (13 巻)
- ・どーん、じゃんけんぽん！ (13 巻)
- ・おぼんちゅうさぎ (13 巻)
- ・マッシュル (13 巻)



由良町公民館だより 2024 夏号 令和 6 年 7 月 1 日

- ・由良町中央公民館 (日高郡由良町網代 248-12 ☎65-2418)
- ・衣奈会館 (日高郡由良町衣奈 765-7 ☎66-0921)
- ・白崎会館 (日高郡由良町吹井 910-2 ☎65-3510)

由良町の景観について



由良町の海岸美は、ここで暮らすものなら誰もが胸を張って誇れるものです。

この由良湾を中心とした景観は、今から280年ほど前に教専寺(阿戸)の九代目当主、智定住職が漢詩をもって詠われています。これには、花鳥風月を詠われた箇所が十八ヶ所(由良十八景)あり、当時も今と変わらずに素晴らしい景観を楽しめたことが窺え、さらにその父親の西海老師がこれに一首ずつ短歌を副えています。

詩を詠まれた時代は江戸の中期で飢饉や災害などが度々あり、人々は飢えに苦しみ、生きることに精一杯の時代にありながら共に教養が高く、また風雅を楽しむことができるような環境にあったと思われます。これらのことを紀伊由良史の一環「由良十八景」と題して、株式会社「酒直」取締役会長で、「由良町誌編集委員会」の顧問をされておられた井原勲さん(故人)が昭和60年に上梓されています。

〇〇八景という言葉は各地で度々聞くことがあります。これは、八景の元祖、中国の瀟湘八景になぞられてつくられたものですが十八景は聞いたことがありません。なぜ、十八景になったのかは不明で、本来なら八景にまとめようと思えますが、感じたままに詠んだものが十八景になったのか作者の感性が感じられます。

由良十八景の詩題は、1. 阿戸の旅船、2. 網代の漁舟、3. 横浜の夕照、4. 鷲峰の晚鐘、5. 中洲の落雁、6. 江ノ駒の梅雪、7. 吹井の薄霧、8. 飛島の孤松、9. 笠山の白雲、10. 白崎の野猿、11. 烟島の白波、12. 蟻島の秋月、13. 桜島の落花、14. 御崎の孤灯、15. 柏崎の夜雨、16. 神谷崎の帰帆、17. 方杭崎の晴嵐、18. 大井の暮雪で、この中には、時の流れの中で姿を変えたものや失われたものなど当時の景観を偲ぶことができませんが、この詩文により当時の有り様が目に浮かびます。紙面には事細かく注釈などが加えられ、また、写真や書画も数多く掲載されたすばらしい作品だと思しますので、一度ご覧いただければと思います。冊子は中央公民館に備えています。

由良町には、「由良十八景」を詠まれた時代や、遡れば「万葉」の時代から詩にも詠まれた素晴らしい景観や自然が今も残っています。これを後世に残していくことが、現在由良町で暮らす私たちの努めであり、故郷を離れて暮らす方々に思い起こしてもらえれば幸いです。



夏休み子ども講座

*ランプシェード作り

7月23日(火) 午後1時〜
(3〜6年生)
定員12名



*管楽器を奏でよう(全2回)

7月27日(土) 午後1時〜
8月10日(土) 〃
(4〜6年生)
定員10名



*リトミック(全2回)

8月6日(火) 午前10時〜
20日(火) 〃
(1〜3年生)
定員10名



*あみもの教室

7月25日(木) 午後1時〜
(4〜6年生)
定員10名



*子ども防災

7月30日(火) 午後1時〜
(1〜6年生)
定員15名



*絵を描こう

8月7日(水) 午後1時〜
(1〜6年生)
定員15名



*硬筆教室(全3回)

7月26日(金) 午前10時〜
8月9日(金) 〃
8月16日(金) 〃
(1〜3年生)
定員8名



*液体窒素(-196℃)の おもしろ実験

8月1日(木) 午後1時〜
(4〜6年生)
定員12名



*毛筆で色紙を書こう

8月21日(水) 午前10時〜
(4〜6年生)
定員8名



【俳句】

風薫る歩け歩けと言ふけれど
早苗待つ棚田は澄みし空映す
蒼天を遠くに虹の消ゆるまで
良く伸びた孫の背丈とアスパラガス
鯉のぼりゆらゆらりと撮影会
万緑を割り開通の旗上がる
虹遠し子と会はぬ日の言葉溜め
代掻きの機械の音もなつかしき
葉の透き間の空が青梅支へをり
安穩に送る余生の古茶新茶
新緑の山の麓に道しるべ
錆び果てし水煙高く薄暑かな
薫風や少女ひらりと一輪車
バラ園の盛り過ぎたる日暮色
父がゐたはず彼の虹が立ちしとき

上本 郁子
大谷 武美
片山 綾子
川口 夏生
小谷 かおり
小山 ひとみ
坂田 妹子
高橋 義巳
竹中 桃代
田淵 佳根
広瀬 峰雄
藤田 薫
山下 治子
吉村 美恵子
北岡 ゆみ

〔7月〜9月の行事予定〕

由良町中央公民館

*山野草展示会

7月6日(土)
7日(日)

*ふれあい映画会

8月3日(土)

*夏休み子ども講座

【報告】 由良町中央公民館

*山野草展示会
4月20日(土)、21日(日)に
開催されました。



*ゴールデンウィーク展

4月27日(土)から5月5日(日)まで開催し、多くの来館者で賑わいを見せていました。

